

熊本記念(GⅢ) 主力の横顔



根田 空史

高校時代から全国にその名を轟かせたスプリント競技の王者は、卒業と同時に逸材集う94期生に1発合格、学校成績こそ20位だけどデビューしてからは恵まれた体軀を生かしての豪快パワーで順調にS級昇格、師匠の中村浩士(79期)の指導もあつてトップスターに仲間入り。

記念の優勝こそ昨年の奈良で郡司浩平を使つての1度きりだが、スケールの大きい先行・捲りで特別でも大暴れ。難点は大きな体の割には繊細な性格で、一寸した事で大スランプに陥る事だけ、悩んでいたフレームは平原康多・村上義弘

等が使用しているメーカーに、細やかなセッティングは師匠に相談してほぼパーフェクトの状態に。地元松戸記念は準決勝迄コマを進めたが、今イチしっくりいかなかった事で師匠に又しても頭を下げて教えるを請い、師匠は「お前の方から言つて来るのを待つたぞ」でレースに臨む心構え、そしてセッティングよりどうしたらスムーズに進むかをじっくり教えたのは、つい力み過ぎて肩に力が入るのを徹底して治す事に、それはハンドルを強く握らずリラックスしたフォームを変えて、時速80キロのバイク誘導を1日何本もこなす事でフォームを確立したのがオールスター一次予選の7番手捲り。決勝進出こそ果たせなかったが、完全に一皮剥けたのは間違いなく、目標は同期のライバル脇本雄太であれば、今回の熊本記念は優勝するしかない。



山崎 賢人

バレーボールに打ち込んでいた日大時代は高校時のアタッカーから運動能力が問われるリベロとして頑張っていたが、在学中にふと立ち寄った立川グランプリに魅せられ、合宿所近くの京王閣競輪に通う内に「俺の進む道はこれだ」と決めるや、古里の長崎県は諫早市に帰り、平尾昌也道場へ入門、そこで師匠に成った山口幸太郎や井上昌己・荒井崇博に基礎を叩き込まれるや早くも素質に火が点き111期に一発合格。競輪学校では逃げに徹し、ド素人から転身したのに在校成績2位で卒業。卒記にルーキーチャンピオンこそ終生

久留米記念は力強い先行で優出果たすや、続く奈良F1は坂本亮馬を千切るパワーで3度目のV。圧巻は記者推選で参加した平オールスターで、いきなり開幕戦の1番車に抜擢されても気後れする事なく鐘前から初バンクを逃げて井上昌己に残して貰つての2着に粘り、さぞや感謝するかと思つたら、大胆にも「井上さんに抜かれたのが悔しい」と言つたのは周りもビックリ仰天。この勢いで2次予選まで準決もツキを味方に初出場初優勝の快挙。雰囲気は呑まれる事なく4着に健闘した快脚は本物、狙うは記念初V。

のライバル南潤(和歌山)に名をなさしめたが、5月松阪F1で佐々木豪との先行争いを制し、湊聖二・西川親幸相手に初優勝決めてからはトントン拍子で、6月地元佐世保ナイターは藤木裕に捲らせず逃げ切りのパーフェクトV。6月の



中村 浩士

父親は熊本市の天明町出身と言う事もあり、誰よりも熊本競輪には愛着がある事で、記念に呼ばれたのを心の底から喜んだ稀代の勝負師、練習は普通にやつてはトツプクラスに通用しないと、低酸素で鍛える事を取り入れるため、アメリカはアリゾナの高地で合宿、帰国するや低酸素部屋を作り自分だけでなく仲間も解放。そこで体力作りをした後は早朝の千葉バンクでの特訓を弟子達と続ける事で鉄脚を身に付け、記念・特別で友人受けするプレーで活躍する傍ら、千葉市長が突然2年後に千葉競輪廃止をプチ上げた事に対し敢

本業の方でも手抜きは一切せず来る者は拒まずで、弟子の根田空史だけでなく岩本俊介の再生に尽力と同時に、自らも科学的なトレーニングで鍛え上げ、今年は優勝こそ惜しい処で逃しているが、8月の地元松戸記念では中川誠一郎の準V、平オールスターは連日不利なコースから伸びて優出、小田原記念準Vと絶好調。

然と立ち向かい支部長戦に立候補して、選ばれてからは存続に奔走、同じ年の若き市長と何度も面談するだけでなく、外堀をしつかり埋め、日本写真判定とガッツリスクラムを組み話し合いを重ねる事で、遂に廃止を撤回させただけでなく、日本写真判定の協力でも2年後には250バンクの屋内場がオープンする事と決定させた手腕は、選手でなくJKAのトップに入り、競輪界を改革して欲しいの声を



小倉 竜二

77期生としてデビューした時から友人受けする追い込み一本でトツプスターの座を守り続けている「鳴門の龍」こと阿波の鉄人は、42歳に成つても上を目指して練習に打ち込んでる姿勢は選手の間で小倉競輪祭2度の優勝は燦然と光る勳章だが、過去の栄光は財産だ、けどまだやれば特別は獲れるし、グランプリ出場も可能と信じてるのは凄いな、この選手最大の魅力は勝利するためなら落車・失格のリスクを怖れず僅かな空間を見つけて突っ込む姿は正に鬼神。誰よりもラインを大事にするので、前

結果が良ければラインのお蔭としか言わないし、ダメだった時は全て自己責任で済ます待でも。今年は相変わらず落車も多いが、プロテクターを外した事で体が軽くなったのか往年の鋭差が甦り、練習してるからか、たまに放つ捲りは痛烈で惚れ惚れするもの。109期のニューモンスター太田竜馬だけでなく、後継者に指名した107期小川真太郎、そして四国No.1レーサー原田研太郎の後輩がトツプで活躍しているのは凄いな、追い風で、自前の自力型を目標にGI3度目のVを狙う。

りのレースをしてから身体を張つて守るし、そのテクニックに激しさは間違いなく日本一。ハンドル投げの名手としても努に有名だが、それ以上に素晴らしいのは自分の領域は守るが、目標不在の時に他のラインに割り込む事、そして競りに行くのを潔しとせぬ男らしさ、



松岡 貴久

名メーカーとして鳴らした博司氏(33期)を父に持ち、自転車競技の名門九州学院高校を優秀な成績で卒業して花の90期生に合格。これ迄幾多の試練を乗り越えて来た熊本競輪界を中川誠一郎と両輪として支えて来たセンス抜群のオールラウンダーも今年にはスタートから何をやっても裏目に出るし、調子が上つて来れば落車もあつて、優勝はか決勝に乗るのにも四苦八苦しる大スランプを味わっているが、必ず克服して、熊本競輪が再開される予定の2年後にはリーダーとして円熟期を迎え、記念・特別を獲得し、初のグランプリに出

様な爽やかな表情をしていたのが昨年の活躍。実兄は捲り主体の孔明(91期)で弟は妙に明るい自信の塊、孝高(98期)、3兄弟は仲良しで常に連絡を取り合つてるが、練習は別で、一人黙々と阿蘇方面の起伏ある道路を早朝に乗り込み、仕上げは辛うじて使える熊本競輪場が集まつて来る仲間とバイク誘導や考えた練習をやつてるとの事。松戸ナイターの落車がやつと癒え、万全に仕上げた臨んだ平オールスターで復活のキッカケを掴んだのに、小田原記念で又落車したが、不屈の闘志で間に合わせる自信。

場してみせるの強い気持ちで日々努力をしているとの事、多分やつてくれるでしょう。これ迄は特別(GI・GII)の優出もあれば、記念優出は30回を越えているのに優勝には縁が無かつたのに、一昨年末の伊東で捲りを決め、やつと優勝を決めた時は憑き物が落ちた



桐山 敬太郎

湘南の波音を子守唄に育つた健康優良児は体躯に恵まれ、中学・高校迄はプロ野球選手を夢見て白球を追い続けたが、卒業と同時に方針転換して名レーサー小門洋一(49期)に弟子入り、厳しい指導に耐えて超エリートが集う88期に合格。スケール大きい自力で下地を作り、スターの仲間入りを果たしたが、絶対にあきらめず勝利を目指す事で落車・失格は絶えず、其の都度スランプに陥つても強靱な精神力で克服。

強く成るための努力は惜しまぬ姿勢が同期のトツプスター山崎芳仁が居た福島迄出掛けて合宿をして、夏の暑い間は親交ある元レーサー斉藤正剛氏(66期)が住む北海道の広大な地でリラックス、あまりの居心地の良さに斉藤氏の勧めもあつて広大な原野を購入したの、これ全て将来を考へての事とか。昨年は信じられぬ失格が続き苦労したが、昨年末の西武園F1で頼もしい後輩郡司浩平の先導で優勝、復活の狼煙を上げるや、今年に入り1月末広島、4月大宮F1Vで今年のGI・GII出場は全て決めたのはこれ全て本人の努力であり実力。熊本記念までには最高の状態に仕上げて来る事を約束。

したり、千葉の中村浩士道場にも率先して参加、そこで根田空史・田中晴基等と考へた練習をやる傍ら、ウエイトだけでなく良いと思う事は全て取り入れる姿勢は現在でも変わらないとの事。群れて練習する事を嫌い、テーマ掲げて練習するのを日課とし